

「ありがとう」と言われてイヤな気持ちになる人はまずいないでしよう。

「ありがとう」という言葉は、人の心を明るく弾はずませてくれます。

ふだん意識にのぼることはほとんどないけれど、そもそも「ありがとう」

というのは、「ありがたし」の連用形「ありがたく」がウ音便化して「有りがとう」となつたもの。

あることが難かたい(=困難であること)、すなわち滅多めつたになくて貴重かうじやうだというところから来た言葉ですから、このわずか五文字の短いフレーズには、相手の親切や厚意を身にしみて嬉うれしく思う気持ち、相手をたたえる気持ち、たとえようもない感謝の念などいろいろな思いが詰つまっているのです。たとえ今、それを口にする人がそこまでの思いに至つていなかつたとしても、「ありがとう」のひと言に込められた言靈は、やはり昔と変わらず人の心を照らしてくれるのでしょうか。

問――「そこまでの思い」とはどのような思いですか。ふさわしい部分のはじめとおわりの五字を書きなさい。